

# 父母連ニュース

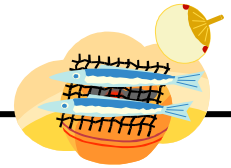
草加市保育園父母会連合会 機関紙

2009年度 第6号/2009年11月14日発行

発行責任者: 高山 943-2616 ・ 浜園 925-4377

表面: 「草加市の明日の保育を考える市長懇談会」報告・学童保育の会からのご案内

裏面: 「新保育制度学習会」報告



「2009年度 草加市の明日の保育を考える市長懇談会」報告

## 私たち保護者の願いが実現！木下市長から 0歳児保育の事実上「継続」の回答！！

草加市保育園父母会連合会 会長 高山幸一郎

2009年10月23日の19:00~20:00、草加市役所西棟5階にある第1第2会議室において「2009年度 草加市の明日の保育を考える市長懇談会」が開催されました。出席者は市側から木下市長や大澤課長をはじめ、司会のいきいき市民相談担当の池田マネージャー他総勢6名、父母連側からは事務局の8名に各園からの参加者、まだ保育園には在籍していない0歳児の子どもたちの保護者を含め総勢75名が参加し、短い時間の中でしたが活発で熱のこもった意見交換が行われました。

まずはじめに来年度から0歳児保育の廃止・移行が予定されていました3園のうち、さかえ保育園の父母会から発言がありました。その中で公立保育園・家庭保育室ともに待機児が発生し、認可外保育園もいっぱいという中、どこにも安心して預けられる場所がなく、職場まで0歳児をおぶって通っている現状の厳しさを訴えながら、ぜひ公立保育園での0歳児保育を継続していただけるよう要望しました。

さかえ保育園父母会からの発言の後、木下市長から「みなさんの思いはよくわかりました。〈中略〉現在の市の方針としては『計画上は0歳児保育を移行する予定』と記述がありましたが、社会状況に合わせて、0歳児の待機児がいるような状況では、公立園の0歳児保育を無くすことはしません。どんどん家庭保育室が増えて充実していけば、公立の0歳児保育が無くなる可能性はありますが、現在のところでは、公立園の0歳児保育が無くなる確定はありません」と回答がありました。10/1現在、草加市では待機児童が407名となっており、その約53%が0~1歳児となっています。このような状況を踏まえての市長の回答でした。会場は大きな拍手に湧きました。

その後にしまち保育園父母会、あさひ保育園父母会からも発言をしていただきました。100年に一度の不況といわれる現在は、これまで専業主婦として家庭で子育てしていた世帯が働かざるを得ない状況になり、保育ニーズが高まっていること、家庭保育室の充実と公立保育園の0歳児保育のニーズとを、数の比較だけでなくよく実際の状況をみて判断して行ってほしい等の要望があげられました。

また家庭保育室の入室方法について、先着順ではなく公立園同様の審査制を導入してほしいとの参加者からの発言に対して、市長から「家庭保育室では、4・5・6月が定員割れしてしまうことがあるようですが、先ほど家庭保育室への入室方法について、公立園と同様に行ってほしいとの提案がありました。すると、家庭保育室の年度当初の立ち上がりの定員割れの問題も解決できるのではないかと、思います」と回答がありました。父母連としては、家庭保育室を今後もさらに充実させて行ってほしいという思いを伝えながら、同時により多くの利用者増が予想される家庭保育室への入室方法について、私たち保護者や家庭保育室の先生方からの意見も吸い上げながらよりよいものを作って行ってほしいと要望しました。



そして職員の待遇改善についても父母連から要望しました。私たちは「保育士という職業が、草加の未来を担う子どもたちの命を預かる仕事と考え、より一層の待遇改善を行うことで安定した質の高い保育士の確保が図れるのではないか」との考えを伝えました。この件に関しては市長から「ごもっともです。一方で児童クラブの指導員も然り、福祉作業所の指導員も同様の状況にあり、ワーキングプアの状況下で働き続けることが難しい状況が起きている、それで良いのか？草加市全体の賃金の枠の中で、アンバランスがあるので、今後はトータルで検討・改善を考えていきたいと思えます」との回答でした。

一方で待機児童対策として、私たち父母連が以前から提案している「旧あずま園舎」の利用については、市側からは否定的な発言でした。市長からは「あずま旧園舎はあまりにも古くて危険。市としては、旧あずま園舎の土地を売却し、新あずま建替えの費用にまわしたいと思っています。財源の捻出が必要なため、あずま旧園舎の存続は厳しい」「すでに売却の事務手続きが管財課に移ってしまっている」との回答でした。父母連からは時限的措置として1~2年程度、短期間での利用についてもお聞きしましたが「第2きたうら保育園は何とかできた、しかしあずまについては困難。一方で、さかえ保育園は皆さんから大規模化に対する不安材料が出されていたので、受入れ人数よりも少なく定員を見積もっている。実際には新さかえ保育園も新あずま保育園も定員を増やせる状況にあるので、そちらの定員増で対応したい」と旧園舎ではなく、新園舎での定員増での対応を検討しているとのことでした。



時間が限られている中で、「0歳児保育の継続」が私たち保護者の前で約束されたことは大きな成果となりました。これもひとえに市長をはじめとする市側の保護者の願いを受け入れていただいたご努力はもちろんのこと、当日会場に集まっていた保護者のみなさんをはじめとする、私たち保護者のこれまでの粘り強い運動の成果です。本当によかったです。みんな喜びあいたいです。

一方で待機児童対策についてはまだまだ課題が残る結果となりました。職員の待遇改善を図りながら職員数を確保し、詰め込み保育ではなく、保育園の新設や既存の施設の活用で早急に待機児童対策が図られるよう、父母連としては今後も活動していく予定です。今後とも皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

草加市学童保育の会から下記のご案内をいただきました。  
保育園の保護者の皆さんにご紹介いたします。

## 我が子の成長が気になる親あつまれ！

— 小学校入学を前にして、  
先輩父母や学童指導員と語り合おう —

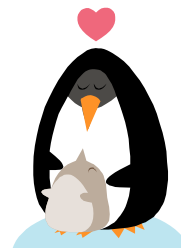
☆障がいがあるお子さんを保育園に預けている保護者の方と、  
小学校の先輩父母や学童指導員との交流の場です。

日時：2009年11月29日（日）  
13:15 受付 13:30~15:30

場所：清門児童クラブ  
（清門小学校敷地内）

※ ぜひご参加お待ちしております。  
※ 保育もあります。

小学校をどう選べばいいの？  
学童ってどんなところ？  
授業はどう進むのかしら…  
などなど ざっぼらんに、  
疑問・悩み・相談  
何でもOK!! ♪♪



# —新保育制度学習会 報告—



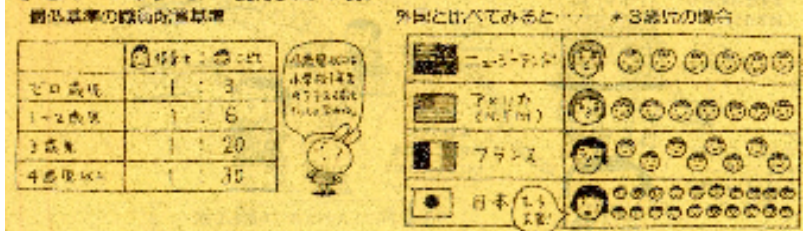
10月30日(金)19時から中央公民館にて、逆井 直紀さん(保育研究所)を講師にお招きして、父母連と保育部会との共催で新保育制度の学習会が行われました。平日の夜にも関わらず、約40名の父母と保育士の参加がありました。

新保育制度についてはたびたび代表者会や父母連ニュースでも取り上げていますが、介護保険制度や障害者自立支援制度と同じように、保育に関しても「要保育度」の認定によって利用者が保育園と直接契約を結ぶことで初めて保育園に子供を入園させられるという制度です。現行の「公が責任を持つ保育」から、「公が直接責任を負わない保育」となるため、様々な問題点が想定されます。学習会の中では、認定を受けても保育を受けられないのでは? 自己負担が増えるのでは?(給食も実費となり、認定時間外の保育料も全額負担) 保育園行事がなくなる!? などの様々な危惧されることとお話いただき、質の高い・平等の保育を望める制度ではないという印象を受けました。

さらに先日、「保育園の最低基準(保育士と子どもの人数比や部屋の広さなど)をなくし、地方自治体に任せる」という方向で、総務大臣と厚労大臣の合意があったという衝撃のお話がありました。4日の長妻厚労相の回答では、「一時的措置として・大都市に限り・面積基準を自治体に任せる」と、最悪の結果は免れましたが、面積基準をなくすことで想定される詰め込み保育は、決して子どもにとっていいことは一つもないと思います。一時的措置の約束が守られることを願います。

## 最低基準は、世界サイテーの基準です

### ●とっても少ない保育士の数!



(全国保育団体連絡会チラシより)

「よい保育を受ける」→「学校にすぐ適応でき、学習能率が上がる」→「将来的な国の経済発展」という考えが、多くの先進国では定着しているようです。将来を担う子供だからこそ、手厚い保育を保障する必要があるのに、今以上に基準が下がるかもしれないの……??

**民主党のマニフェストの中に「障害者自立支援法をなくす」というものがあり、直接契約・利用者責任の制度に問題があるという認識があるにもかかわらず、この新保育制度については実行する方向で現在も検討が重ねられています。当初の予定では2013年度実施ということですが、新政権になってこれが早まるのか遅まるのかも全く分からない状態だということです。決して遠い将来の話ではなく、今保育園に通っているわが子にもの降りかかる可能性のある問題です!**

これからの保育園はどうなってしまうんだろう……と不安の多い内容でしたが、「運動をしていくことで、その流れを止めることはできます!」という明るい希望のお話もありました。今までも、私たち父母の署名活動や議員への働きかけによって食い止められ守られてきた実績は多くあるとのこと。私たち一人一人がまず知り、周りに知らせ、署名などの活動に参加することが必要だと実感しました。学習会に参加して下さったみなさま、ありがとうございました。

父母連事務局 中島幸代



